

じん や まち ふくわらへん  
～ 陣屋町 福原編 ～



▲旧黒羽道中と八坂神社

1, はじめに

(1)福原地区とは？

福原という地名の由来については諸説ありますが、ここでは大島融太郎先生の説を紹介します。

(1)「<sup>たいら</sup>平でとても豊かな土地だった」説

「福原」の「福」は、土地が美しく、豊かであることを意味しています。

また、「原」は、「平野で開けた土地」を意味しているといえます。

(2)「<sup>せつつのくにふくはら</sup>摂津国福原に似ている」説

摂津国福原は、現在の兵庫県神戸市にある瀬戸内海に面した場所で、平安時代末期には平清盛が都を置いたことで有名です。この福原の都が、大田原市の福原地

区と似ている、という説です。確かに、急峻な崖のすぐ側に海(川)があり、その間に開けた場所がある、という点では一致しています。

福原には、戦国時代には上那須家の、江戸時代には那須家(下那須家の流れを汲む系統)の本拠がありました。特に、元禄14(1701)年に那須家が1,000石の旗本(交代寄合)として再興されると、那須家は福原(現在の玄性寺付近)に陣屋を構えました。以降、明治維新まで福原地区は那須家の陣屋町として栄えました。また、東西に矢板～小川方面を結ぶ道(県道 285 号福原小川線)が、南北に黒羽～喜連川(県道 167 号蛭田喜連川線)を結ぶ道が通り、東西には箒川が流れています。

福原地区は、明治22(1889)年に佐久山町に属し、昭和29(1954)年以降は大田原市に編入され、現在に至ります。

## (2)今回歩く範囲

今回の史跡ウォークでは、金剛寿院駐車場を起点として福原八幡宮→玄性寺→千手院跡→八坂神社の順に、陣屋町を東西に歩いていきます。

## 2, 各ポイントの紹介

### (1)金剛寿院

真言宗智山派宝持山金剛寿院伝法寺。室町時代那須家の祈願寺として開かれました。当初は烏山にありましたが、福原の慶城院が空寺となったため、那須家の求めに応じて福原に移ったといえます。住職は、戦国時代には那須家と佐竹家の取次(仲介役)も務めており、佐竹義昭や佐竹義重の起請文が伝来しています※。明治元(1868)年の神仏分離まで福原八幡宮の別当も兼ねていました。

※市指定有形文化財(古文書)。那須与一伝承館寄託



## (2) <sup>ふくわらはちまんぐう</sup>福原八幡宮

<sup>ほんだわけのみこと</sup>菅田別命を祭神とする古社で、清和天皇の頃(859年～877年)に<sup>ふじわらのよしかど</sup>藤原良門が諸国に八幡宮を勧請するために奥州に下向する途中、靈気を感じ八幡宮を建立したのが由来とされています。那須家の<sup>すうけい</sup>崇敬も深く、与一も源平合戦後に社殿を再建し、毎年<sup>もみ</sup>粍50俵を奉納したといひます。江戸時代初期には那須家から粍50俵と<sup>さいしりょう</sup>祭祀料2俵を寄進されていましたが、<sup>じょうきょう</sup>貞享4(1687)年に那須家が改易されると祭祀料等の奉納も一時途絶えました。元禄14(1701)年に那須家が福原1,000石として再興すると、福原八幡宮は那須家から水田5反歩を神地として寄進されました。



▲福原八幡宮

また、貞享2(1685)年には<sup>なすすけみつ</sup>那須資弥が社殿を再建し、<sup>かんせい</sup>寛政2(1790)年には<sup>なすすけあきら</sup>那須資明が本殿や拝殿、玉垣を修復したといひます。特に本殿の修復には、那須家の一族の福原



▲福原八幡宮 本殿 市指定有形文化財

家(佐久山陣屋)も寄進していたほか、福原村や近隣の大神村、大田原町、須賀川地区など、各地の人々も寄進しました。寛政2年に修復した本殿は現存しており、大田原市の指定有形文化財(建造物)に指定されています。

## (3) 銅金橋

福原八幡宮の馬場の端にあつたという橋で、その名前はかつて橋の<sup>ぎぼし</sup>擬宝珠が金銅の金具で飾られていたことに由来するとともに、福原から打越に通じる一番坂道の楽なところ(=導木坂)に由来するともいわれています。



#### (4) <sup>げんしょうじ</sup>玄性寺 / <sup>ふくわらしんやあと</sup>福原陣屋跡 / <sup>しせんせき</sup>矢剪石 / <sup>もち うた</sup>餅つき唄 / <sup>なすけぼひ</sup>那須家墓碑

##### ①玄性寺(那峯山瑠璃光院)

那須家の菩提寺の一つで、戦国時代の那須家当主(那須資房)<sup>なすけふさ</sup>が開基といわれています。当初は臨済宗でしたが、後に曹洞宗に改宗されました。慶安3(1650)年、那須資重は下総国葛飾郡鴻の台<sup>こう だい</sup>(現在の千葉県市川市)の総寧寺<sup>そうねい</sup>から尊鷲和尚と本尊<sup>ほんそん</sup>を勧請<sup>かんじょう</sup>し、玄性寺を再興し、以降毎年粉100俵を奉納したといわれています。福原陣屋の廃絶後に現在地に移りました。

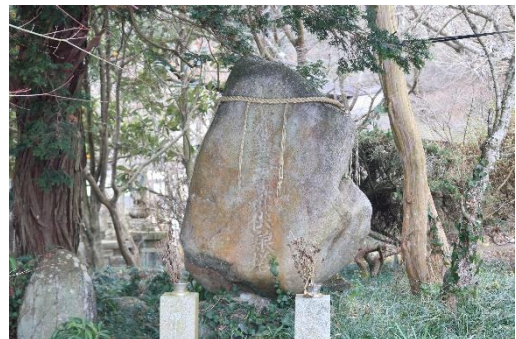
##### ②福原陣屋跡

元禄14(1701)年に再興した那須家が陣屋を置いた場所です。現在の玄性寺境内付近(小高い丘の上)にありましたが、道路新設工事のため遺構はありません。

なお、江戸時代初期に那須家(那須藩)が陣屋を置いた場所は不明です。

##### ③ <sup>しせんせき</sup>矢剪石

与一が屋島で扇の的を射落とした瞬間、遠く離れた福原で突然石が裂けました。領民は何事かと驚きましたが、与一の偉業を聞き、この石を「矢剪石」と名付けたといわれています。



▲矢剪石

##### ④ <sup>もち うた</sup>餅つき唄 **大田原市指定無形民俗文化財**

福原地区ゆかりの伝統芸能で、治承4(1180)年に与一と兄の十郎為隆<sup>ためたか</sup>が源義経に従って出陣する際、領民がその出陣を祝って<sup>げきれい</sup>激励の力餅をついたことに由来するといわれています。作詞者は不明ですが、代々口伝で唄い継がれてきました。歌詞は15番までありますが、順番に唄う訳ではなく、その時々に応じて取捨選択します。ちなみに、与一のことは「三国一の男美男で旗頭」と唄っています。

9月の与一公墓前供養祭(玄性寺)や11月の大田原市産業文化祭(栃木県立県北

体育館)、同月のもみじ祭り(佐久山の御殿山公園)で披露されます。ちなみに、かつては正月番組で初代林家三平やガッツ石松、森昌子と共演したことがあるほか、昭和58(1983)年にはサンフランシスコで行われた桜まつりに招待されて披露したこともあります。この時、木製の臼を飛行機に乗せることができなかつたため、現地の石臼を使って披露したほか、杵を担いで街中を練り歩いたといひます。

#### ④那須家墓碑 大田原市指定史跡

墓碑は、西側(向かつて左側)から①那須資興なすすけおきの嫡子、②伝那須資隆なすすけたか(与一の父)、③那須与一宗隆なすのよいちむねたか、④那須資景なすすけかげの妻、⑤那須資景なすすけかげ、⑥那須家歴代の合祀碑、⑦那須資重なすすけしげのものが並ぶ。弘化2(1845)年、那須資明なすすけあきら・資礼すけひろ父子は御霊神社ごりょうじんじや(那珂川町恩田)から与一の御霊みたまを遷し、⑥の那須家歴代の合祀碑ごうしを建立しました。

大正6(1917)年に建立された門柱は平田東助ひらたとうすけ(傘松農場の経営者)によるもので、「流芳存萬古、遺蹟傳千秋」(流芳萬古りゅうほうばんこにあり、遺蹟千秋いせきせんしゅうに伝う)とあります。  
※流芳…芳名を伝えること。名を後世に残すこと。伝わり残った名声。遺徳。

#### [補足]人物紹介

a)那須資景なすすけかげ (天正14・1586年頃てんしょう～明暦2・1656年めいれき)

那須家第25代当主。那須家は、那須資晴なすすけはる(資景の父)が豊臣秀吉に従わなかつたため改易されましたが、資景(当時は藤王丸ふじおうまる)が大田原城で秀吉えつげんに謁見し謝罪したことで許され、那須郡福原5,000石を拝領しました。慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いでは徳川氏に味方し、大田原城に籠城して北の上杉景勝軍に備えました。戦後加増され、那須藩1万4,000石の大名(陣屋は福原)となりました。

b)那須資重なすすけしげ (慶長14・1609年～寛永19・1642年かんえい)

那須家第26代当主で資景の子。寛永8(1631)年には徳川家光の紅葉山参詣に供奉くぶし、同年には日光山造営にも携わつたほか、同11(1634)年には家光が上洛し

た際の江戸城留守役を務め、同13(1636)年には日光山の警護や朝鮮通信使の日光参詣の警護、同18(1641)年には家光が滞在する宿所(今市の御旅館)の修理を行うなど活躍しました。しかし、同19(1642)年に父資景より先に病没しました。跡継ぎが無かったため所領は全て没収されましたが、名家の断絶を憐れまれて父資景に福原5,000石が与えられました。

c) 那須資明 (宝暦10・1760年～天保3・1832年)

那須家第31代当主。家宝の記録に尽力し、源頼朝から拝領した白旗や与一の太刀と拵・胴丸・持小旗・陣羽織・宇都宮俊綱旗の6件を模写した「軍器図」を自ら作成したほか、那須家に宛てた戦国時代の書状(計87通)も模写しました。書画や模写図も多数残しており、とても文化的な当主でした。寛政2(1790)年に福原八幡宮の本殿や拝殿・玉垣を修復しました。

d) 那須資礼 (寛政4・1749年～文久元・1861年)

秋田藩主の佐竹氏の出身で、文化5(1808)年に那須資明の娘婿として那須家の養子になり、文化8(1811)年に那須家第32代当主となりました。養父の資明と同じく文化面に秀でた人物で、書や絵画等が残っています。

e) 那須資興 (天保11・1840年～明治3・1870年)

宮津藩主の本庄宗秀の4男で、嘉永2(1849)年に那須資礼の娘婿として那須家の養子になり、万延元(1860)年に那須家第33代当主となりました。戊辰戦争では新政府軍に属し、領内の治安維持に務めました。

f) 平田東助 (嘉永2・1849年～大正14・1925年)

貴族院議員や農商務大臣を歴任した人物で、明治27(1894)年には品川弥次郎と品川開墾(傘松農場)の共同経営者となりました。墓所は蛭田にもあります。

## ⑤稲積稲荷神社

那須家が厚く崇敬していた稲積稲荷大明神を祀っています。「玄性寺調書」によると、与一が扇の的を射た際、白狐(稲積稲荷大明神)が現れて与一を手助けしたといわれています。その後、江戸時代後期の当主(那須資礼)が福原城内にあった社を福原陣屋の中に祀ったといわれています。



## ⑥相生の楓

那須資礼が植えたもので、樹齢は約200年といわれています。

## (5)黒羽道中跡

喜連川宿の北で奥州道中から分岐し、和田・小郷野・福原・片府田・折橋・中の原(湯津上)を通して清水坂で大田原道(大田原道と黒羽向町を結ぶ道)に合流して黒羽城下に至る道です。黒羽藩主が参勤交代で使用しました。近代には、陸軍の第14師団が金丸原演習場から宇都宮に戻る際に利用したといわれています。現在は、一部が県道167号蛭田喜連川線に転用されています。また、福原地区には八坂神社周辺に柵形が、常敬寺の南東側には掘割があります。



▲黒羽道中跡の掘割

## (6)千手院跡／聖観世音菩薩像

福原の各地区には、それぞれ神社やお堂があり、各地区で管理しています。千手院は、下町のお堂です。千手院は天台宗の寺院で那須資弥の墓所として創建されましたが、養寿院に改葬したため廃寺になったといわれています。

現在も資弥を供養する<sup>しょうかんげおんぼさつ</sup>聖観世音菩薩像があります。



▲千手院跡／観音堂



▲聖観世音菩薩像

「貞享四<sup>丁卯</sup>六月廿五日」  
※貞享4年…1687年

「連臺院殿光国清心大居士」  
(那須資弥)

### (7)八坂神社

<sup>たじゆく</sup>田宿地区で管理している神社で、旧黒羽道中沿いにあります。



### [補足]各地区の神社とお堂

地区	名称
<sup>かみちよう</sup> 上町	愛宕神社・千勝神社
<sup>しもちよう</sup> 下町	聖観音(観音堂)
<sup>なかまち</sup> 仲町	諏訪神社
<sup>だいじゆく</sup> 大宿	天満宮
<sup>たじゆく</sup> 田宿	八坂神社



## [その他のスポット]

### ・あたらごさん愛宕山(汗馬山) / なすのよいちのひ那須與一之碑

福原地区の南側にある山で、与一が馬が汗をかくほど訓練をしたということから汗馬山とも呼ばれています。山頂には愛宕神社があり、境内には与一や那須家を讃<sup>たた</sup>える石碑(那須與一之碑)や福原地区出身の歌人(松山ちよ)の歌碑があります。



▲那須與一之碑

### ・ふくわらしょう福原城(北岡城 / ようがいじょう要害城)

北岡城と要害城は、どちらも福原地区にある那須家の居城といわれています。北岡城は平城で、要害城は平山城です。北岡城は、江戸時代の「那須郡福原村絵図」には「<sup>あざ</sup>字御城跡」とあります。また、要害城は、東西約220m・南北約240mの規模を誇り、堀切や郭が良好な状態で残っています。要害城の西側には千手院裏城跡があり、両城の間には古道(現在の市道。通行不能)があります。

かつては要害城～千手院裏城～玄性寺～福原八幡宮を繋ぐ道(山道)があり、要害城から各地区へ伝令が走っていたといえます。



◀本丸と二の丸の間の堀切

### いんこう しみず ・院口の清水

ポケットパークの北側にある湧水点です。一説によると、与一が歩けないほどの重病となった際、領民がこの清水を使って米をといて粥にして食べさせ、病氣平癒を願ったという逸話があります。



### ようこうじ ・永興寺

曹洞宗福久山永興寺。建久元(1190)年に福原久隆(与一の兄)が開いたという古刹で、以来、福原氏の菩提寺でしたが、墓所は永禄10(1567)年に当時の当主(福原資孝)が佐久山の実相院に移しました。

### じょうきやうじ ・常敬寺

中戸山西光院常敬寺。浄土真宗大谷派の寺院で、戦国時代の弘治年間(1555～1558)に戦禍を避けて下総国関宿(現、千葉県野田市)から移ったといいます。

境内の東側には、県道 167 号蛭田喜連川線(旧黒羽道中)が通っており、境内の南東側には旧道跡(掘割)もあります。

### ・境界石「佐久山町有林」

佐久山町は昭和29(1954)年に大田原市に合併されましたが、現在も旧福原小学校の南側には「佐久山町有林」と刻まれた境界石があります。





▲旧福原小学校と境界石「佐久山町有林」



【史跡ウォーク】福原コース  
「陣屋町 福原編」～終～